



ありがとうございました

(株)オカムラホーム様と千葉英和高校調理部の皆さんより「MIRAI KOMINKA for Schoolプロジェクト」で得られた収益の一部から、農業生産者が農作物を加工する際に使用できるミキサー1台を寄贈いただきました。

高校生が伝える「忘れないで。原爆の記憶」

2月10日勝田台文化センターで八千代高校2年生4人が、修学旅行で広島を訪れ感じたことを発表しました。戦後78年が経ち、被爆者の高齢化が進んでいる中、平和の大切さを忘れないためには途切れることなく戦争や原爆の悲惨さを後世に語り継いでいく必要があります。来場者からは「高校生が感じた戦争と平和、心に響いた」「平和の大切さを実感した」などの感想が寄せられました。



▲焼け焦げた弁当の持ち主や家族に想いを巡らせた

大和田機場 4月6日(土)に春の一般開放を実施

大和田機場(村上3139)は、市内を南北に流れる新川(印旛放水路)の南端にあり、(独)水資源機構千葉用水総合管理所が管理運営を行う施設です。普段穏やかな新川の水は、印旛沼と繋がり利根川へと流れていますが、大雨になると沼の水位が下がらず、溢れ出す恐れがあります。この時本領を発揮するのが大和田機場です。増水時には、東京湾につながる花見川へ毎秒120トン(25mプールを3秒で一杯にする量)の水を排水することが可能で、洪水被害を発生させないよう、印旛沼や周辺地域を守り続けています。



▲赤白鉄塔が印象的な大和田機場

その役割を広く市民の皆さんに知ってもらうことを目的に、桜の開花時期(毎年4月の第1土曜日)に合わせて敷地内を全面開放しており、ポンプの試運転を見学することができます。今年は4月6日(土)に実施され、ポンプの試運転は午後1時30分から1時45分までの15分間です。新川千本桜を愛でながら、大和田機場まで足を伸ばしてみたいかがでしょうか。



▲ポンプ試運転の様子

令和6年能登半島地震 被災地に職員派遣を行っています

本市は県からの要請を受け、1月12日から17日まで住家被害認定調査のための応援職員として石川県珠洲市へ2人、1月13日から18日まで被災建築物応急危険度判定の応援職員として石川県輪島市へ2人、1月28日から2月1日まで、2月18日から22日まで、および3月4日から8日まで避難所運営支援のため珠洲市に延べ6人を派遣しました。また、(公社)日本水道協会千葉県支部からの要請を受け、1月20日から2月6日まで水道施設の応急復旧活動に係る支援として、石川県羽咋郡志賀町へ上下水道局と市管工事協同組合の職員延べ17人を派遣しました。派遣された職員は現地の様子について市長へ報告を行い、珠洲市役所の職員が少ない人数で電話対応に追われていた様子や、避難所では食事内容や栄養に偏りがあること、倒壊している家が多く復旧まで時間を要する印象を受けたことなどを話しました。※派遣期間は移動日も含みます。



▲横倒れになったビル(輪島市)



▲湯煎などで温めた食事を配膳(珠洲市の体育館避難所)

市民伝言板

- 女性だけのギターサークル見学会 先生による個人指導及び簡単な合奏でギターを楽しんでいます。お気軽においでください。対象は女性のみ。3月18日(月)午後2時～4時30分、緑が丘公民館。申し込みはソロギターサークル・ドルチェ・鈴木☎090-7906-9339
- 歌の花束コンサート 合唱曲、唱歌、童謡、ポピュラーなどなたでも楽しめるコンサートです。全席自由。4月7日(日)午後2時30分～4時(午後2時開場)、勝田台文化センター。申し込みはもくれん・手嶋☎090-2148-9806
- ワイワイみんなの歌会 参加者みなさんからのリクエストでいろいろな歌をたくさん歌いましょう。4月7日(日)午後2時～4時30分。八千代台文化センター。申し込みはワイワイ音絵体クラブ・加藤☎482-5228

声の広報やちよが50年目を迎えました



▲朗読の会の皆さん

視覚に障害を持つ人たちに、文字を言葉で届ける「声の広報やちよ」は、昭和49年から始まり、今年で50年目を迎えました。読み上げてくれるのは、ボランティアグループ「朗読の会やちよ」の皆さん。聞き手に伝わりやすいように、読み方や順番を考えながら、毎号一日がかりで収録を行っています。長年こうしたボランティアの力に支えられながら続いています。声の広報やちよ(音声CD)の送付を希望される人は、広報広聴課☎421-6704へ。

リサイクル・ガイド

消費生活センター☎483-1151(代表)

●受け付けは、土曜・日曜日、祝日を除く午前9時～正午・午後1時～5時。市内在住の人が対象です。企業・営利団体は利用できません。
【ゆずります・無料】 ▶砂利/1cm灰色、3cmミックスカラー・単色各種
上記の他に、市役所1階掲示板・市ホームページでもリサイクル品情報を紹介しています。

八千代歌壇

鶴岡 美代子選

何ひとつ物を持たずに旅をする渡鳥のごとく我も行きたくし

(大和田新田) 諏訪 俊一

年内は寒くならぬと油断せば強く冷えて縮み上るも

(大和田) 紺野 正勝

夫は枯梗をわれはヒマワリそれぞれに秘めたる思い出映かすこの庭

(八千代台東) 藤井 京子

一輪の秋海棠の笑みは揺れ傘寿たまうと亡母に告げたり

(村 上) 新井 豊子

この年は吾が七廻りの干支なるも今しばらくは朝夕歩く

(八千代台西) 元村 泰介

デコネイルつけまつ毛など目に慣れて時代は常に人を呑みこむ

(桑 納) 石上 文枝

外輪船で本場のジャズのライブ聴くニューオリンズの想ひ

出の夜会 (八千代台南) 一戸 光代

デジタル化 進んでいても人々の繋がりは ねえ 素でいたいよね

(緑が丘) 奈良 直美

宇宙より眺めた地球は青かった今の地球は青ざめている

(勝田台) 杉本美恵子

選評 一首目、水鳥を見ての感慨だろうか。思えば、私たちがあまりに多くの物にかこまれて生活している。もつとシンプルでいいのではないかと考えさせられた作品。二首目、この冬は暖冬と言われたものの、急に寒くなった日に戸惑ったのだろう。三首目、花の違いは一つの例で、夫婦も古くなると、互いの関心度や干渉度が減って、個の側面が増してくる。

やちよ川柳

八千代川柳連盟選

新婚の朝寝に邪魔なふれ太鼓 緑が丘 宮崎 巖

座っても勝負が出来る指相撲 緑が丘 今野 文子

子や孫が祝う米寿の笑顔の輪 緑が丘 加茂 英代

お正月お屠蘇を冷ます能登の揺れ 萱田町 渡邊 昭二

血を流す活発にする八千歩 勝田台 塩田 正男

鈍行がいやしてくれたふらり旅 勝田台 松野久美子

絵の様な幸せ披露ウエディング 米本 西澤はるか

横文字を縦に書いても意味不明 大学町 伊藤ばん子

熊も猿も温泉もいる大相撲 村上 佐藤 昌平

婚活もアバター同士デートする 八千代台北 小川 剛毅

名スター蓮華の上で舟唄を 大学町 林 茂一



防災無線自動電話応答サービス
☎0120(970)911
24時間以内の防災無線放送の内容を確認できます